展　示

重要文化財「大寺縁起」修理完成記念・「大寺縁起下絵」大阪府有形文化財指定記念
特別展　大寺さん―信仰のかたちをたどる―

平成28年9月13日（火）～10月23日（日）

堺区の開口神社（あぐちじんじゃ）は、堺南荘の鎮守三村宮として知られ、住吉大社の外宮としても位置づけられていました。かつてあった神宮寺の念仏寺にちなんだ「大寺さん」（おおてらさん）という愛称でも市民に親しまれています。開口神社には堺の人々のふかい信仰を背景にして、多くの古文書や美術工芸品が今に伝えられています。

開口神社所蔵の重要文化財『大寺縁起』（土佐光起・画、元禄3〔1690〕年）は、制作以来はじめての本格的な修理を平成24年度より2か年をかけておこない、このたび地元で、修理完成後初めてのお披露目の機会を得ました。また当館所蔵の「大寺縁起下絵」は、平成27年度新たに大阪府有形文化財に指定されました。当館ではこれらを記念し、同縁起をはじめとする開口神社ゆかりの文化財を知っていただく機会とすべく本特別展を企画しました。

ふだんは年1回しか御開帳されない平安時代の薬師如来坐像や、豊臣秀吉書状などをはじめ開口神社・念仏寺の歩みを伝える開口神社文書（大阪府指定文化財）、江戸時代の祭礼に関わる資料などもこの機会にご紹介し、堺の町と密接なかかわりを持つその歴史に理解を深めていただけるよい機会となりました。（渋谷）

【主な展示品】

※特に記載がない所蔵先は開口神社蔵

・行基画像　南北朝時代　当館蔵
・三重塔風鐸　江戸時代　当館寄託
・開口神社境内図　明治35年　当館寄託
・SKT263出土遺物　中世～近世　堺市文化財課保管
・豊臣秀吉朱印状（開口神社文書、大阪府指定文化財）
　天正14年　大阪城天守閣寄託
・豊臣秀吉朱印状（開口神社文書、大阪府指定文化財）
　天正20年　大阪城天守閣寄託
・豊臣秀次朱印状（開口神社文書、大阪府指定文化財）
　年未詳　大阪城天守閣寄託
・菅原道真画像　室町時代　当館寄託
・薬師如来坐像　平安時代
・大小路鉾用胴掛　江戸時代
　当館蔵、大小路鉾組寄贈
・大寺縁起（三巻附一巻および箱、重要文化財）
　江戸時代　大阪市立美術館寄託
・大寺縁起下絵（大阪府指定文化財）
　江戸時代　当館蔵

【関連事業】

◆記念講演会
日時：9月18日（日）午後2時～3時30分
演題：「『大寺縁起』について」
講師：朝賀　浩氏
　（文化庁文化財部美術学芸課　主任調査官）
会場：博物館ホール

◆学芸講座
日時：9月25日（日）午後2時～3時30分
演題：「古文書からたどる『大寺さん』」
講師：当館学芸員　渋谷一成

◆展示品解説
日時：9月17日（土）・10月2日（日）
　共に午後2時～2時30分
講師：当館学芸員

企画展　ファンタジーを染める　たじまゆきひこ展　型絵染と絵本原画

平成28年7月9日（土）～9月4日（日）

主催：堺市博物館／協力：堺市立中央図書館、こどもの本WAVE／企画協力：メディアリンクス・ジャパン

子どもたちに大人気の絵本『じごくのそうべえ』や堺大空襲を描いた絵本『ななしのごんべさん』の作者である田島征彦氏は、大阪府堺市大浜で1940年に生まれました。5歳で父の故郷・高知県に移住、高校まで過ごしたのち、京都市立美術大学（現在の京都市立芸術大学）染織図案専攻に進学、アーティストへの第一歩を踏み出します。

田島氏の絵本の特徴は、染色の技法のひとつである「型絵染」が用いられていることです。絵本のテーマに対して数年がかりで取材をし、型を彫り、染めの工程を繰り返すことにより、これまでにおよそ30冊の絵本を制作してきました。それらの絵本には、さまざまな素材や技法を用いて、たくましく生きる人々の物語が力強く表現されています。

本展では、絵本の原画のほか、ダイナミックな染色作品も展示し、田島征彦氏の創作の世界を体感していただきました。　（宇野）

【関連行事】

◆田島征彦氏ギャラリートーク
日時：7月9日（土）午前11時～11時30分

◆田島征彦氏講演会
日時：7月10日（日）、8月14日（日）
午後2時～3時30分
会場：博物館ホール

◆ワークショップ「WAVE in さかい2016」
日時：8月21日（日）午前10時30分～12時
「なんでもスタンプでバッグをつくろう！」
同日　午後2時～4時
「ステンシルでてぬぐいを染めよう！」
主催：こどもの本WAVE、堺市博物館
場所：博物館ホール
講師：齋藤槙氏（絵本作家）
対象：5歳以上の子どもと大人
（小学生以下は保護者同伴）
定員：各回30名、参加費：1人300円

展示会場（絵本原画）

展示会場（染色作品）

田島征彦氏講演会

企画展　妙國寺の歴史と名宝を訪ねて―堺の寺町再発見―
平成28年11月1日（火）～12月11日（日）

堺区材木町東4丁の妙國寺は、戦国大名三好長慶（1522～64）の弟で、武将の三好実休（1527～62）が、堺商人油屋常言の子息日珙（1532～98）を開山に招いて開いた寺院です。

1615年大坂夏の陣で焼失しましたが、再建され寺町の北部に広大な境内地を構えました。大きな本堂、三重の塔、樹高5メートルの巨大な蘇鉄を擁した妙國寺は、日蓮宗の本山寺院であると同時に古くから観光名所としても知られていました。

本堂や三重の塔は惜しくも第二次大戦の戦火で失われましたが、大蘇鉄や名宝の数々は難を遁れて現在に残っています。この企画展では本格的な修理を終えた妙國寺の日蓮聖人曼荼羅本尊三幅を当館で公開しました。また、同じく修理を終えた日珙自筆の『己行記』（こぎょうき）とその紙背文書（本紙の裏側に書かれた文書）の複製も一堂に展示しました。

本展では、妙國寺の歴史と名宝をご紹介し、堺の寺町を代表する名刹についてご理解を深めていただきました。また、秋季堺文化財特別公開とリンクし、博物館と妙國寺の間をボランティアガイドの案内で繋ぐ新しいイベントも実施、好評を得ました。（矢内）

【展示構成と主な展示品】

Ⅰ．「初公開・日蓮聖人曼荼羅本尊三幅」

文永12年	日蓮聖人曼荼羅本尊	1幅
弘安３年	日蓮聖人曼荼羅本尊	1幅
弘安５年	日蓮聖人曼荼羅本尊	1幅

Ⅱ．「妙國寺の名宝拝見！」

重要文化財　短刀（鎌倉時代）	1口
重要文化財　短刀（南北朝時代）	1口
日珙書状（室町時代）	3幅
三好実休画像（室町時代）	1幅
鰐口（江戸時代）	1口
堺市指定文化財　宝物集（1553年）	1冊
秀吉朱印状（天正20年）	1幅

Ⅲ．日珙筆『己行記』の紙背に歴史を見る

堺市指定文化財　行功部分記	1冊
堺市指定文化財　己行記	1冊
紙背文書複製（永禄4年以降）	30通

Ⅳ．妙國寺を訪ねてみませんか

大そてつの図　江戸時代	1枚
泉州堺広普山妙國寺境内全図（明治28年）	1枚

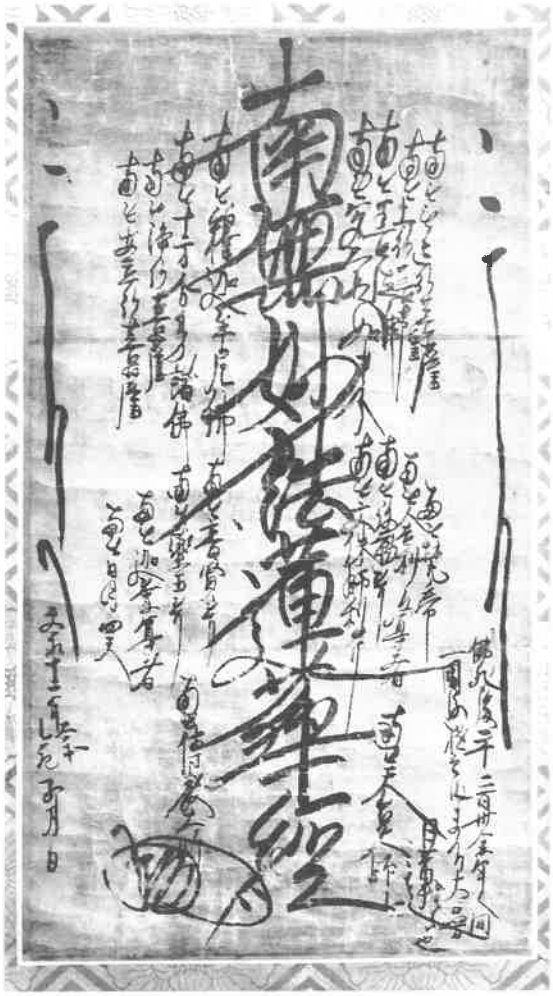
【関連行事】（いずれも当館学芸員による）

◆展示品解説

日時：11月5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)
それぞれ午後1時から30分程度。
秋季堺文化財特別公開とタイアップして実施。

◆学芸講座

日時：11月20日（日）午後1時～午後2時30分
演題：「妙國寺の蘇鉄伝説の謎を探る―大蘇鉄はなぜ泣いたのか―」
会場：博物館ホール
講師：当館学芸員　矢内一磨



文永12年日蓮聖人曼荼羅　妙國寺蔵

企画展　むかしのくらし―不思議な道具の数々―
平成28年12月17日（土）～平成29年2月19日（日）

本展では、江戸時代から現代までの暮らしで使われた道具や遊び道具などを紹介しました。今の私たちの身の回りには、便利な道具がたくさんあります。しかし、これらの道具が昔から便利だったわけではありません。人々が暮らしやすくなるように、様々な進歩をとげてきたものです。

これらの道具が進歩する前と今とを比べ、どのような工夫がされており、どのような点が便利になっているのかについて、比較しました。

また、期間中には学校関連行事として、市内の小学校3年生を対象に、企画展の見学や、昔の遊び道具の体験を含めたプログラムを実施し、33校の参加がありました。（橘）

【展示構成と主な展示品】

※特に記載がない所蔵先は当館蔵

1. 江戸時代から現代まで　暮らしの移り変わり
   - 江戸時代～平成までの教科書
   - 羽子板（堺市文化財課蔵）
   - 泥メンコ（堺市文化財課蔵）
   - レコード（個人蔵）

2. お米づくりの昔と今
   - 馬鍬
   - 足踏み脱穀機
   - 唐箕

3. 仕事道具の昔と今
   - 謄写版
   - そろばん
   - 手回し計算機

4. 暮らしの中の昔と今
   - 蓄音機
   - ふご
   - 二眼レフカメラ
   - 龍吐水
   - 安全コタツ

【関連行事】

◆展示品解説

「むかしの道具、どうやって使ったのかな？」

日時：1月7日（土）午後2時～2時30分

会場：企画展会場

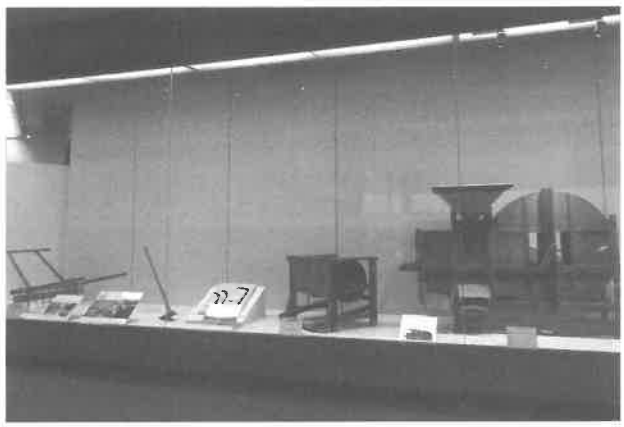
講師：当館学芸員

◆体験学習会

「むかしの道具・遊びを体験してみよう」

日時：1月21日（土）・2月5日（日）・2月26日（日）
各日午後1時～4時

会場：博物館ホールほか



重要文化財指定記念
土塔の文字瓦
―古代からのメッセージを聴く―
平成28年6月4日（土）～7月3日（日）

堺市中区土塔町にある大野寺は、奈良時代の僧・行基（668～749）が建立した四十九院のひとつで平安時代に書かれた『行基年譜』には「神亀四年丁卯」（727）に起工したと記されています。

鎌倉時代に作られた『行基菩薩行状絵伝』には、本堂や門などと共に、十三重で頂部に露盤と宝珠を表現した「十三重土塔」が描かれています。この土塔は、仏塔の一型式で昭和28年（1953）3月31日に史跡に指定され、さらに平成10年度（1998）から始まった発掘調査成果を基に平成17年（2005）3月2日には追加指定されました。

一辺53m、高さ8.6m以上を測り、十二層に盛土された各方形壇には寺院建築と同様にそれぞれ瓦が葺かれていました。それらの瓦には、行基を中心として「知識」と呼ばれる信仰によって結ばれた人々の名前が線書き（刻書）されたものがあります。その人名は、僧尼・有姓氏族・無姓氏族などに分類され、これらは当時の仏教文化の伝播とその受容の実態、さらにそれらを担った人々の社会構成を窺うことができる貴重な文化財です。

史跡　土塔の発掘調査により出土した文字瓦については、平成28年3月11日に国の文化審議会から文部科学大臣に重要文化財指定の答申が出され、8月17日付で文部科学大臣により「大阪府大野寺跡（土塔）出土品」として638点が国の重要文化財に指定されました。それを記念して、重要文化財の文字瓦などを展示しました。（續）

【主な展示品】

■重要文化財　土塔出土品　81点
・神亀四年銘軒丸瓦　・「神亀五年」銘　平瓦
・「大野寺」銘　丸瓦　・和同開珎、神功開寶
・須恵器願文
■発掘調査風景パネルなど

【関連行事】

◆講演会
日時：6月25日（土）午後2時～3時30分
演題：「大野寺（土塔）から出土した文字瓦について」
講師：文化財課　近藤康司
会場：博物館ホール

津々浦々
―近世瀬戸内海航路図の世界―
平成29年3月11日（土）～6月4日（日）

江戸時代、船を使って多くの人や物が往来した瀬戸内海。その様子を描いた航路図には、当時の人々の地理感覚が反映されています。この展示では、当館が収蔵する屏風や絵巻などの作品の数々をご覧いただき、津や浦と呼ばれた当時の港の様子をご覧いただきました。（矢内）

【主な展示品】（※は個人蔵、それ以外は当館蔵）

◆前期　3月11日（土）～4月23日（日）

瀬戸内海航路図屏風	6曲1隻
西海筋海路図屏風	6曲1双
南海道航路図巻	1巻
西海絵図巻	1巻
瀬戸内海海路図巻	1巻
染付日本地図皿（肥前）	1枚
黄釉世界図皿（源内焼）	1枚

◆後期　4月25日（火）～6月4日（日）

西海筋風俗図巻	1巻※
西海航路図屏風	6曲1双
江戸から長崎図屏風	6曲1双のうち左隻※
江戸長崎道中図巻	1巻
西海絵図巻（永井浄入筆）	1巻
色絵日本地図皿（再興九谷焼）	1枚
色絵九州地図皿（肥前）	1枚

【関連行事】

◆学芸講座
日時：3月25日（土）午後2時～3時30分
演題：「港町堺の盛衰―長崎との堺糸荷廻船から西洋造りの堺駿河屋まで―」
講師：当館学芸員　吉田豊
会場：博物館ホール

コーナー展示　慧海と堺
平成28年10月26日（水）～12月4日（日）

河口慧海（1866～1945）の生誕150年事業のひとつとして文化財課とともに開催。

堺市博物館では「慧海とその思想」というテーマで、町家歴史館清学院では「慧海が生まれたまち」、町家歴史館山口家住宅では「慧海と堺」というテーマで展示しました。

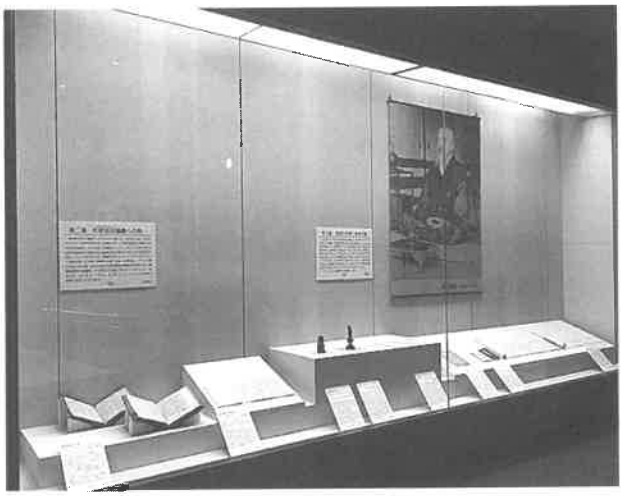
特に慧海の自筆による日記は、『西蔵旅行記』のもととなるもので、平成28年8月に慧海の遺族宅で新たに発見されたものであり、遺族宅より借用した蔵英辞典や絵巻とともに注目を集めました。

（堀川）

【展示品リスト】

※特に記載がない所蔵先は個人蔵

- 羅漢坐像（羅漢寺旧蔵）
- 河口慧海日記　明治33、34、35年分
- 西蔵旅行記（初版本）　当館蔵
- 日誌及び修学記
- チベット旅行絵巻（二・三巻）
- 蔵英辞典　二冊
- 蔵梵蔵経和訳趣意書　当館蔵
- 梵字釈尊名号　当館蔵
- 髙村光雲作　釈迦牟尼仏像
- 髙村光雲作・髙村豊周補作　誕生仏
- 髙村光太郎書簡・河口慧海宛　当館蔵
- 入菩薩行　当館蔵
- 仏教日課　当館蔵
- 飯能幼稚園日課　当館蔵
- 河口慧海墨跡　梵字釈尊名号　当館蔵



速報展「ニサンザイ古墳発掘調査速報展」
平成28年4月26日（火）～5月29日（日）

主催：堺市文化財課

ニサンザイ古墳は百舌鳥古墳群の東南端部に位置し、前方部を西に向けた前方後円墳です。墳丘長は約300mで百舌鳥古墳群では3番目、全国でも7番目の大きさです。古墳の築かれた5世紀後半の同時期に限れば、全国で一番大きな古墳となります。現在の周濠は内濠のみですが、築造当初は二重に巡っていたことがわかってきています。

本展では、平成24～27年度に堺市文化財課が実施したニサンザイ古墳の発掘調査で出土した遺物と調査風景写真パネルを展示しました。

整理作業を経て復元した円筒埴輪・朝顔形埴輪などを中心にして、併せて周濠内で発見された木橋跡に伴う橋脚材も初公開しました。

また、報告会では平成27年度の発掘調査で明確になった周濠に架かる木橋跡を中心にした調査結果を発表し、その歴史的な意味を考えました。（續）

【主な展示品】

円筒埴輪、
朝顔形埴輪、
蓋形埴輪、
盾形埴輪、
須恵器甕、
木製品（木橋跡）
など

【関連事業】

■報告会（2回開催）

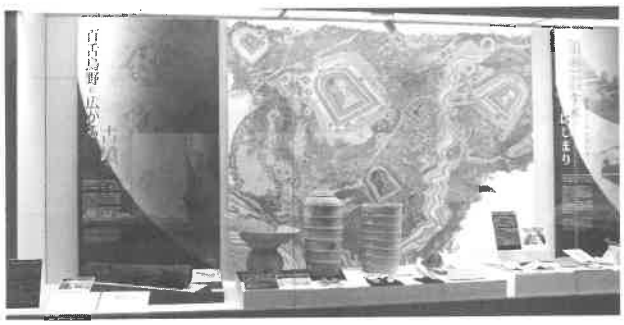
場所：博物館ホール　定員：100名

①日時：5月8日（日）午後2時～3時30分

「古墳時代最大の木橋」　田村唯史（文化財課）

②日時：5月22日（日）午後2時～3時30分

「これまでの調査成果」　内本勝彦（文化財課）



黄梅庵室礼「堺・花彷茫―花で辿った堺ルネサンスの日々―」

平成29年3月19日（日）～4月9日（日）（3月27日、4月3日を除く）

開催場所：堺市茶室「黄梅庵」　公開時間：午前10時～午後4時

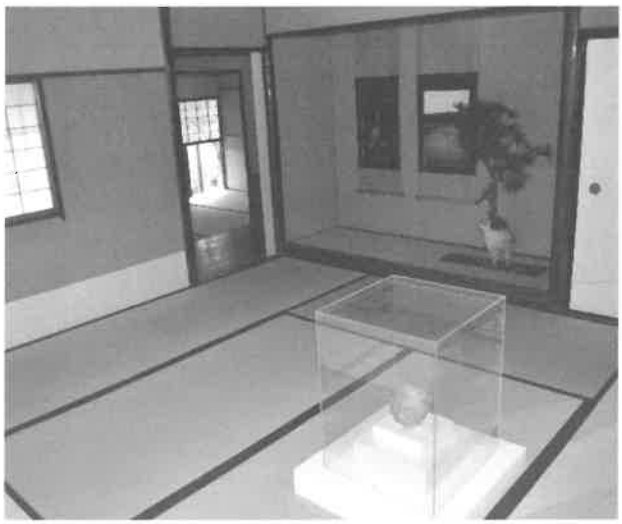
堺市博物館敷地内の堺市茶室「黄梅庵」で、室礼『堺・花彷茫（はなほうぼう）』～花で辿（たど）った堺ルネサンスの日々～」を開催しました。

「堺ルネサンス」は、堺市在住の華道家・みささぎ流家元の片桐功敦氏が月刊誌『婦人画報』の誌上で2016年4月号から2017年3月号までの一年を通し、堺の歴史と魅力を花と言葉で紹介する連載でした。その誌上を飾った写真家・消忠之氏が撮影した堺の魅力と片桐氏のいけばなの写真を片桐氏監修で再構成し、掛軸や屏風にして黄梅庵に展示しました。室内では、連載が掲載された『婦人画報』、連載をまとめた堺市博物館発行の図録『堺ルネサンス』、連載に関係する堺市博物館の展示品なども展示しました。

この展覧会は、新たな来館者を開拓するとともに館の魅力向上をめざす目的で開催したもので、会期期間の20日間には2,271人の方々が観覧されました（観覧無料）。その結果、堺の内外の方々に対して、堺の魅力や、堺市茶室「黄梅庵」を活用した茶室や生け花などの日本の伝統文化、無形文化の魅力を発信できました。　（赤澤）

◆協　力

片桐功敦、消忠之、谷本順一（株式会社つぼ市製茶本舗代表取締役）、株式会社ハースト婦人画報社、公益社団法人堺観光コンベンション協会（敬称略）



◆会期中のイベント

1）片桐功敦氏による講演会

「歴史と風土に花を添えること」

日　時：3月26日（日）午後2時～3時30分

場　所：博物館ホール

参加者：73人（入場無料）

2）片桐功敦氏によるいけばな作品展示

日　時：3月24日（金）～26日（日）

【堺市茶室「黄梅庵」】

国の登録有形文化財であり、茶の湯創成期に天下三宗匠の一人だった茶人・今井宗久ゆかりの茶室。宗久の所領、奈良県高市郡今井町を代表する商家・豊田家（国指定重要文化財）で江戸時代から使われていました。その後、近代茶道を推進した数寄者の一人、茶道の四天王とも称された「昭和の電力王」松永安左ヱ門（耳庵<じあん>）が昭和23（1948）年に小田原の地に移築・再興。屋敷内の梅の実が黄熟する頃に完成したことから、耳庵により黄梅庵と名づけられました。堺と歴史的に関係深い京都・大徳寺の立花（橘）大亀和尚の仲介により、「伸庵（しんあん）」とともに、堺市が寄贈を受けることができ、昭和55（1980）年10月の博物館開館に合わせて再移築されました。